

国際大会出場の京都すばる高生

企画力で審査員賞

与えられた社会的課題の解決法を考え、競い合う国際大会「グローバル

・エンタープライズ・チャレンジ」(六月十七、十八日・英国カーディフ

市)に、日本代表として出場した京都すばる高(京都市伏見区)の生徒らが審査員賞を受け、帰国した。

大会は、スコットラン

ドの行政機関の主催。今回、米国防空宇宙局(NASA)から「八歳から十二歳の子どもたちに、地球人であることを意識させられるような新しいゲームを開発せよ」との課題が出され、参加した十カ国・十二チームが二

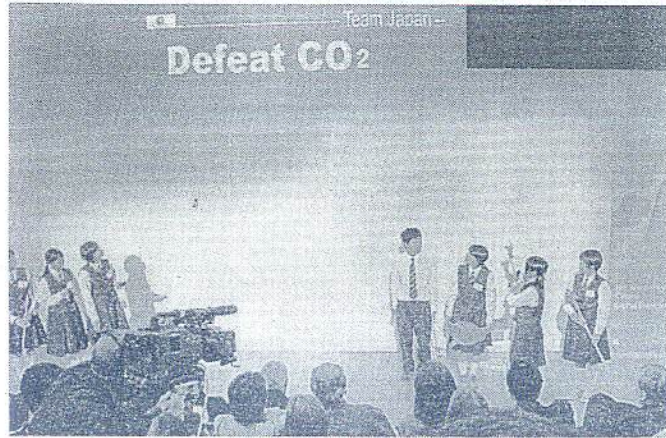
十四時間以内で企画書をまとめ、発表した。同高の企画科三年生八

人でつくるチームは、地球温暖化に着目し、二酸化炭素削減への意識を促す「デイフィートCO₂」と名付けた携帯用ゲーム機を考案した。

CO₂濃度を測るセンサーで現在の地の濃度を感知し、画面にはその高低に応じた敵キャラクターが出現する。酸素を用いた技で敵を倒していくと、地球の温度が下がる仕組みだ。インターネットで世界各地の様子も分かる。

企画の面白さが審査員から高く評価されたといいい、目標としていた優勝は逃したが、特別に審査員賞を受賞した。

リーダーの山崎安敦君は「優勝できず悔しいが、外国のチームから、一番大事なポイントを押さえる発表の仕方などを学べ、いい経験ができた」と話していた。



大会会場で企画を発表する京都すばる高チーム(英国カーディフ市)＝京都すばる高提供